

2014年1月30日

関係各位

野村ホールディングス株式会社
コード番号8604
東証・名証第一部**野村ホールディングス、2014年3月期第3四半期の連結決算を発表**

野村ホールディングス株式会社(グループCEO:永井浩二)は、本日、2014年3月期第3四半期(2013年10-12月、以下「当四半期」)の連結決算を発表した。

当四半期の収益合計(金融費用控除後)は3,794億円、税前利益は869億円、同社株主に帰属する当期純利益は483億円となった。

同社のグループCEOの永井浩二は、以下のとおりコメントした。

「第3四半期は前四半期比で増収・増益となり、3ビジネス部門の税前利益合計も引き続き高水準を維持した。

営業部門は、日本株の活況等を背景に株式や投資信託の募集買付金額が増加、全社利益を牽引した。アセット・マネジメント部門は、投信および国内外の機関投資家からの資金流入が継続したほか運用資産残高も過去最高となり、税前利益も前四半期比で増益となった。ホールセール部門は、これまでの損益分岐点の引き下げ努力に加えて、引き続き堅調なフィクスト・インカムの収益やインベストメント・バンキングにおけるプライベート・エクイティ評価益等により、前四半期比で増収増益となった。

当社は引き続き、『アジアに立脚したグローバル金融サービスグループ』として、国内外のお客様に付加価値の高いソリューションを提供し、経済の成長や社会の発展に貢献していく。」

当四半期決算のポイント

当四半期決算のハイライトは以下のとおり。

	2014年3月期 第3四半期	前四半期比	前年同期比
収益合計 (金融費用控除後)	3,794億円	+6%	△2%
税前利益	869億円	+19%	6.7倍
純利益	483億円	+27%	+140%

- 今年の連結決算では野村不動産ホールディングスの収益や費用等が算入されない影響もあり、前年同期比で収益はマイナスとなるが、利益は大きく伸び、営業、アセット・マネジメント、ホールセールすべてのビジネス部門が前四半期比で増収増益であった。
- 営業部門は、株高・円安の進行や活発な市場取引を背景に株式・投信募集買付が増加、個人向け国債の販売も健闘した。
- アセット・マネジメント部門は、運用資産残高の拡大、配当収入や成功報酬も貢献して、引き続き高水準の収益および税前利益を計上した。
- ホールセール部門は、当四半期よりデリバティブの評価方法を変更し、それに伴い約100億円の評価損を計上したが、海外フィクスト・インカムとプライベート・エクイティ評価益等の貢献により、前四半期比で増収増益となった。
- プライベート・エクイティ投資先である足利ホールディングス上場時点の評価益113億円はホールセール部門に計上し、上場後12月末までの評価益12億円は「その他」のセグメントに計上した。
- 当四半期の税前利益には、自社およびカウンター・パーティのクレジット・スプレッドの変化に起因する54億円の損失が含まれている。
- 2013年12月末における速報値(バーゼル3ベース)で、連結自己資本規制比率は14.0%、Tier 1比率は12.0%。2013年12月末現在のB/Sの資産合計は43.6兆円、株主資本は2.5兆円、グロスレバレッジは17.5倍、調整後レバレッジは10.9倍である。

当四半期の各部門の状況

● 営業部門

営業部門の収益合計(金融費用控除後)は前四半期比7%増の1,280億円、税前利益は前四半期比19%増の477億円であった。

株高や円安の進行を背景に投資家のリスク許容度が高まったことから、株式・投信募集買付が増加した。顧客資産残高はマーケット要因が追い風となり、過去最高の96兆円となった。

NISA申込口座数は、2013年12月末現在116万口座である。

	2014年3月期 第3四半期(10億円)	前四半期比	前年同期比
収益合計 (金融費用控除後)	128.0	+7%	+34%
税前利益	47.7	+19%	+135%

● アセット・マネジメント部門

アセット・マネジメント部門の収益合計(金融費用控除後)は212億円、税前利益は89億円。新たな資金流入と好調な市場環境により、ネット運用資産残高も過去最高の32.9兆円となった。

投資信託ビジネスでは株式に投資するファンドを中心に引き続き資金が流入、投資顧問ビジネスでも、国内は公的年金から債券運用を追加受託し、海外は株や債券など多様な運用商品に資金が流入した。

	2014年3月期 第3四半期(10億円)	前四半期比	前年同期比
収益合計 (金融費用控除後)	21.2	+14%	+13%
税前利益	8.9	+45%	+22%

● ホールセール部門

ホールセール部門の収益合計(金融費用控除後)は1,887億円、税前利益は278億円であった。日本と米州の回復によって、収益の地域ミックスが改善した。

- グローバル・マーケットは、欧州と米州のフィクスト・インカムが増収となり、前四半期並みの収益を計上した。
- ✓ フィクスト・インカムは、市場環境の改善によりクレジットと証券化商品が増収となった。
- ✓ エクイティは、デリバティブの減速により前四半期比減収であったが、プライマリー案件によるフローの増加もあり、キャッシュ・エクイティは堅調に推移した。
- インベストメント・バンキングは、日本での収益機会の縮小により前四半期比で減収であったが、海外では株式市場の改善を受けてIPOを中心にECM関連収益が伸長した。

	2014年3月期 第3四半期(10億円)	前四半期比	前年同期比
収益合計 (金融費用控除後)	188.7	+3%	△0.2%
税前利益	27.8	+10%	△37%

以上

詳細につきましては、当社ホームページ(<http://www.nomuraholdings.com/jp/investor/>)にて掲載の決算短信および決算説明資料をご覧ください。また、本日(2014年1月30日)午後6時30分より、決算説明テレフォン・カンファレンスを開催する予定です。この模様は、当社ホームページ(<http://www.nomura.com/jp/>)を通じてライブ配信いたします。

本資料は、米国会計基準による2014年3月期第3四半期決算の業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではありません。本資料に含まれる連結財務情報は、監査対象外とされております。

本資料に掲載されている事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性および完全性を保証または約束するものではなく、今後、予告なしに変更されることがあります。本資料は、2014年1月31日現在のデータに基づき作成されております。なお、本資料で使用するデータおよび表現等の欠落・誤謬等につきましてはその責を負いかねますので、ご了承ください。

本資料は将来の予測等に関する情報を含む場合がありますが、これらの情報はあくまで当社の予測であり、その時々状況により変更を余儀なくされることがあります。なお、変更があった場合でも当社は本資料を改訂する義務を負いかねますので、ご了承ください。

本資料のいかなる部分も一切の権利は野村ホールディングス株式会社に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。

<問い合わせ先> グループ広報部

西原、杉、山下、吉村、菅井、小林、戸田、鈴木 TEL:03-3278-0591